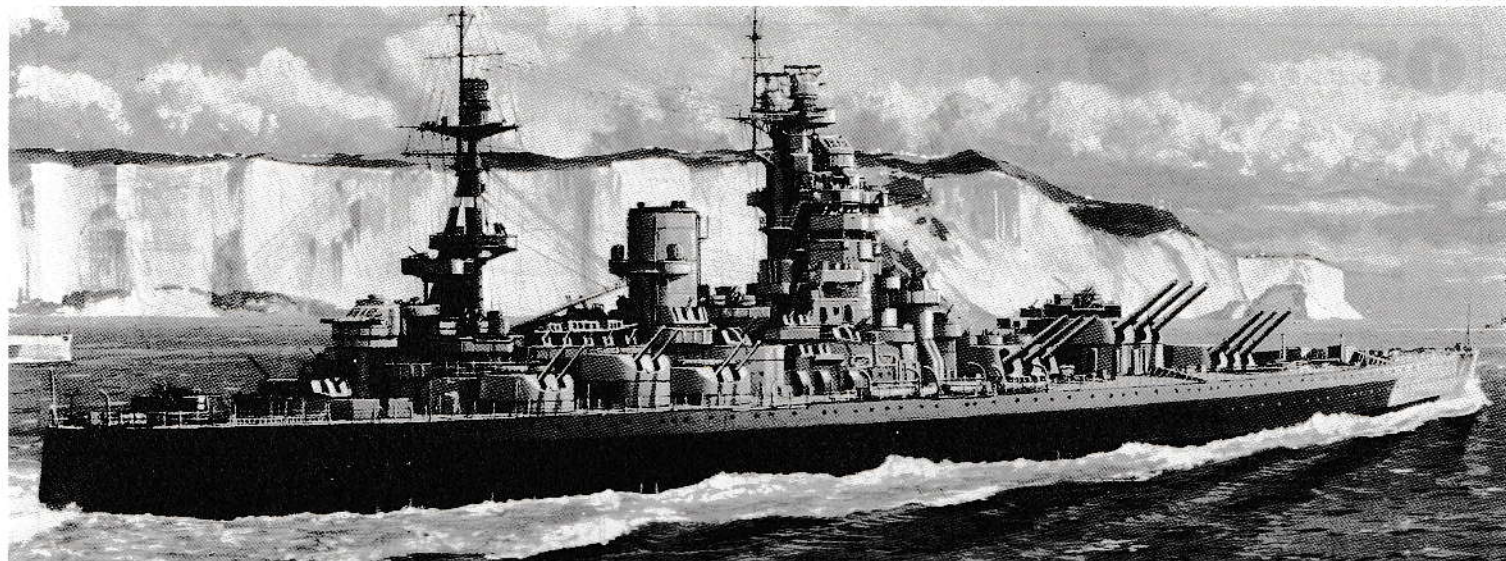


NELSON

ウォーターラインシリーズ NO.104
イギリス海軍 戦艦ネルソン
BRITISH BATTLE SHIP



イラストレーション・上田毅八郎

WATER LINE SERIES

第2次世界大戦前の、まだ、平和がつづいていた昭和の初期、日本の長門クラス、アメリカのカリフォルニアクラス、そしてイギリスのネルソンクラスは、世界の3大戦艦といわれていた。いづれも、すこしでも強い戦艦にするため、海軍当局と造船技術者が血の通ったような苦心を重ねて作りあげた巨艦であったが、とくに、イギリスのネルソン、クラスは9門の40.6cm砲をすべて艦の前半部に集めるといった変わった方法をとっており、世界の軍艦のなかでも異色の存在であった。イギリス造船界の至宝といわれた、サー・ユースタス・テニスン・ダインコートが、この異例の主砲配置にふみ切った理由は、普通の主砲配置では、9門の40.6cm砲をはじめとし、近代戦艦に必要な諸設備をつみ、しかも十分な防禦力をもたせようとする、軍縮条約に規定された主力艦の排水量は35,000トン以内という制限をこえてしまうためである。

ネルソンのような主砲配置をとると、弾薬庫、機関室などの重要部分が船の中心部に集中してくるので、普通の配置の場合よりも装甲板をはる部分が短かくてすみ、充分な厚さの装甲をしても、まだ、装甲関係の重量を節約できるという利点があったのである。ただし、この方式をとると、艦橋が後方になるため操艦に不便なことや、全主砲を後方へ向けて射ったとき艦橋がものすごい爆風を受けるという欠点があった。

この主砲配置の他にも、いくつもの新機軸がとり入れられているが、その一つに、インターナルアーマーと呼ばれる防禦構造がある。これは般体の内側に傾斜させて装甲板をはる方法で、ネルソンのばあい、厚さ35.6mmの装甲板を使用していた。もちろん、バルジも内蔵されていたし、38mmの対魚雷隔壁も設けられ、さらに重要部分は15.9mmの防禦甲板をはるといった徹底した重装甲が採用されていた。

第2は、このクラスの巨艦は4軸式タービンが普通であるが、ネルソンの場合は速力を23ノットにおさえたため、タービン2基の2軸推進式ですんだことである。しかし、この23ノットという低速力は、のちに、運動性の悪さとともに、本艦の泣きどころとなった。特色の第3は、ふつうの艦とは逆に機関室をボイラー室の前方に配置したことである。また、乾舷が高いことも特色で、これは悪天候下で行動するとき大きな威力を発揮した。このほか、砲塔式で、しかも対空戦闘にも使用できるような60度という高迎角をとれる副砲、搭形の艦橋なども、長門式やカリフォルニアにくらべると一歩進んだ設計であった。

密集した弾幕をはるポンポン砲をはじめ採用したことも特色で、対空兵器は最初はこの8連装ポンポン砲2基と12cm高角砲6門であったが、大戦中、8連装ポンポン砲をさらに2基のほか、40mm4連装機銃4基、20mm機銃61挺を追加している。しかし、こうした特色のかげには、いくつかの泣き所もひそんでいた。航空兵器の貧弱さもその一つで、ネルソンは1936年以降、水上偵察機を1機搭載したが最後までカタパルトはつまずき、デリックで海面へおろして発進させるといった不便な方法をとっていた。これにひきかえ、電波兵器は充実しており、1939年に完成した79Y型警戒レーダーをいち早く搭載したのを手はじめに、レーダー

装備に力を入れ、大戦中期以降は対空用の279～281型、主砲射撃用の284型、高角砲射撃用の285型、ポンポン砲射撃用の282型、方位測定用の271型などを搭載していた。1922年12月28日、ピッカース、アームストロング社で建造を開始ネルソンは4年半の日時を費したのち、1927年6月に完成、ただちに本国艦隊に編入された。そして開戦時には本国艦隊旗艦として活躍していたが1939年12月4日、ロック、コー入口で磁気機雷にふれて損傷した。翌1940年6月、修理を終えたネルソンはその後1年あまり本国艦隊に所属していたがマルタ島攻防戦が激化したため、1941年7月、地中海のH部隊に移った。そして船団護衛にあたったが、9月27日イタリア空軍のサボイアSM84雷撃機の攻撃を受けて損傷、帰国した。1942年4月、修理を終えて戦列にもどったネルソンは、8月のオペレーション・ペダスタル（台石作戦—マルタ島増援作戦）に参加したのち、11月にふたたびH部隊に編入された。そして、11月8日のオペレーション・トローチ（たいまつ作戦—北アフリカ上陸作戦）をはじめ、1943年7月のシシリー作戦、9月のサレリノ上陸作戦などに参加したが、1943年11月修理のため、ふたたび帰国した。修理完了後は本国艦隊に加わり、1944年6月のノルマンディー上陸作戦では、僚艦ロドネイなどとともに援護射撃を行ない、40.6cmの巨弾をドイツ軍防禦陣地に、つるべうちに打ち込めたが機雷にふれて損傷した。翌1945年修理されたのちは、東インド艦隊に編入され、ここで終戦を迎えた。そして1948年3月老朽化のため解体されることとなり、20年にわたるその生涯を閉じたのです。

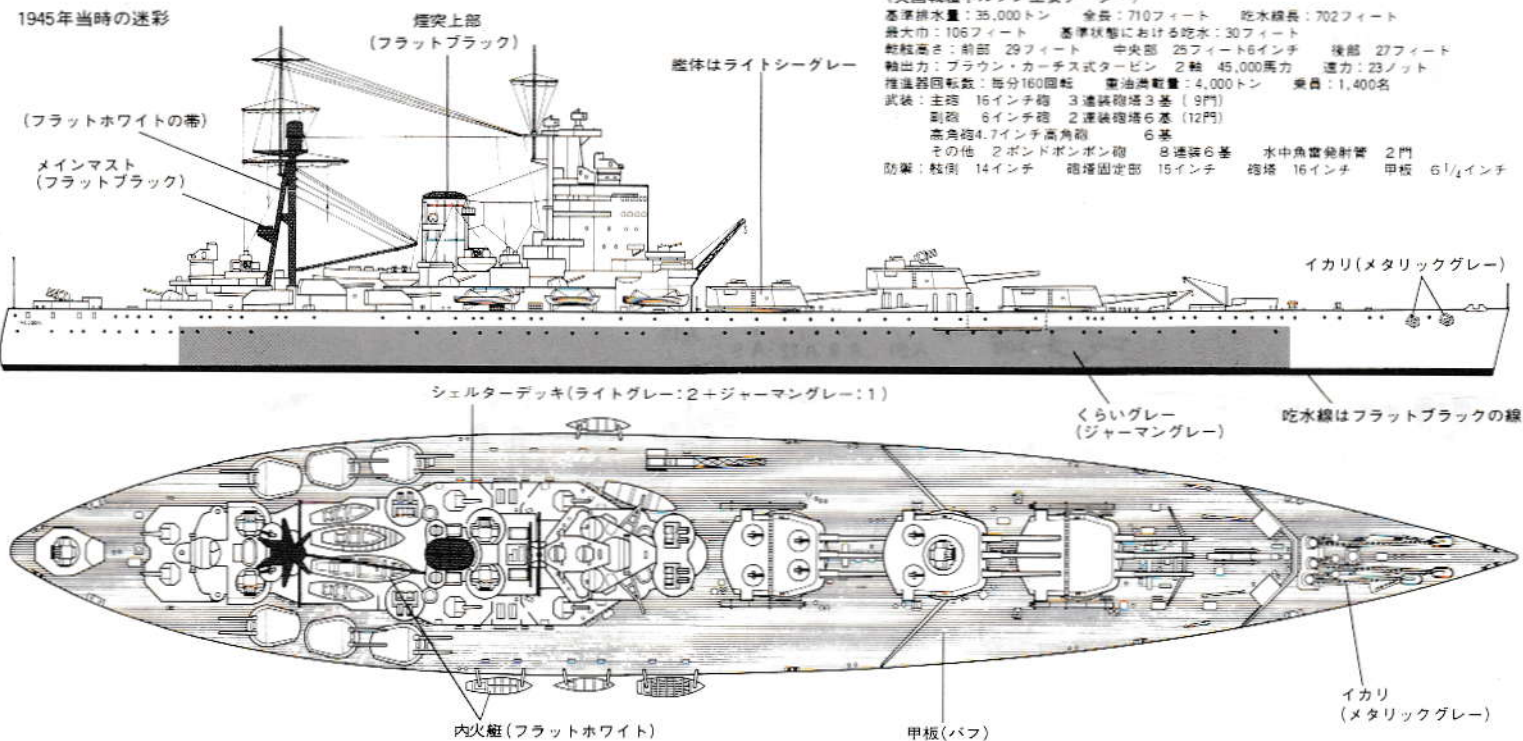
〔ポンポン砲〕、ピッカース社で開発した中距離用の対空砲で、口径は40mm、8連装で密度の高い弾幕を張ることができ、特に急降下爆撃機や雷撃機の攻撃に有利でした。

第1次世界大戦終了後イギリス海軍本部は英海軍艦艇用の標準塗装方式を制定した。それによると沿岸警備艦隊と太平洋艦隊はダークグレー、地中海艦隊はライトグレーの全面塗装であった。極東、東インドおよび太平洋における艦艇については、熱反射色である白が程度の差こそあれ広く使用された。第2次大戦勃発直後の1939年末から、迷彩塗装（その多くは正式なものではなかった）が見られるようになった。海軍本部は当初迷彩に関する指令をいくつも出していたが1943年までに正式

な便覧ができあがり、数種の正式な迷彩塗装と色見本片それに、迷彩や色合いに関する理論を示した。ネルソンも1943年当時、英国海軍本部から出された正式な迷彩（アドミラルティスタンダード迷彩）がなされていた。これは標準色のライトグレーの上に、濃いブルー、ダークグレーと少し青味がかったホワイトで迷彩されていた。1945年当時になると普通のライトグレーの艦艇色にダークグレーの迷彩もなされました。この他細部の塗装は次の様になされていました。吃水線部

は2m位の巾で黒く塗られて煙突、上部フォアマスト、レーダーマスト及びボンボン砲の砲身が黒、内火艇、ポードは白で塗られていました。甲板は、ダグラスファー（もみの木の種類）をはったもので無塗装でした、シェルターデッキはやその他の床面はダークグレーで塗られていました。塗装図は下図を参考にして下さい。塗装指示はパクトラタミヤカラーで指示してあります。色の正確なパクトラタミヤであなたのモデルに実感をあたえて下さい。

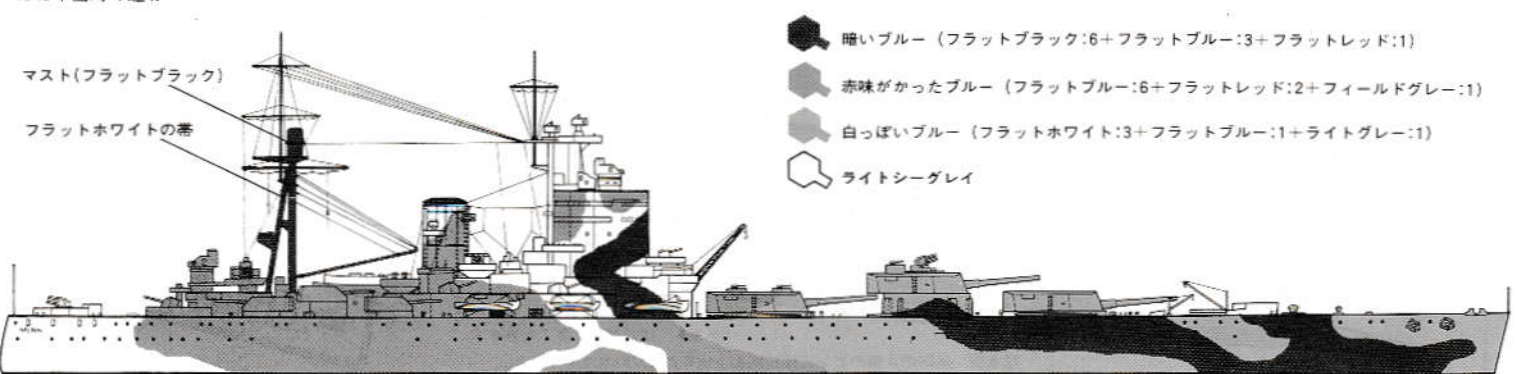
1945年当時の迷彩



（英国戦艦ネルソン主要データ）

基準排水量：35,000トン 全長：710フィート 吃水線長：702フィート
 最大巾：106フィート 基準状態における吃水：30フィート
 総重量：前部 29フィート 中央部 25フィート6インチ 後部 27フィート
 軸出力：ブラウン・カーチス式タービン 2軸 45,000馬力 速力：23ノット
 推進器回転数：毎分160回転 重油消費量：4,000トン 乗員：1,400名
 武装：主砲 16インチ砲 3連装砲塔3基（9門）
 副砲 6インチ砲 2連装砲塔6基（12門）
 高角砲 4.7インチ高角砲 6基
 その他 2ポンドボンボン砲 8連装砲基 水中魚雷発射管 2門
 防禦：舷側 14インチ 砲塔固定部 15インチ 砲塔 16インチ 甲板 6 1/4インチ

1943年当時の迷彩



- 暗いブルー (フラットブラック:6+フラットブルー:3+フラットレッド:1)
- 赤味がかったブルー (フラットブルー:6+フラットレッド:2+フィールドグレー:1)
- 白っぽいブルー (フラットホワイト:3+フラットブルー:1+ライトグレー:1)
- ライトシーグレイ

NELSONネルソン

《作る前にお読み下さい》

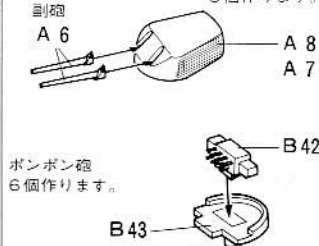
★お買い求めの際、また組み立ての前には必ず内容をお確かめ下さい。万一不良部品、不足部品などありました場合には、お買い求めの販売店にご相談下さい。なお組み立てを始

められた後は、製品の返品、交換などに応じかねます。

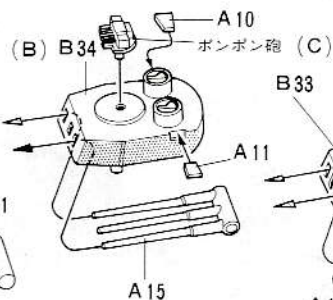
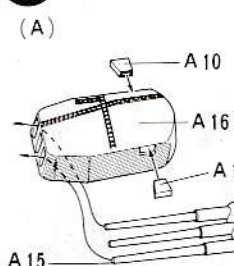
写真用山崎電気工業株式会社より著作権者代表者、
 製造上の秘密
 1. 知照の承諾を得ないでこの内容を複製し、いかなる方法でも公衆に知らせないで下さい。
 2. 複製にはお買い求めの製品を必ずして下さい。
 3. 複製の権利は山崎電気工業株式会社に帰属します。
 山崎電気工業株式会社
 〒52-0000 57-1006 52-5013
 部品の取付した状態は、幼児が解ったりしない様に設計してあります。

1 副砲と ボンボン砲のくみたちて

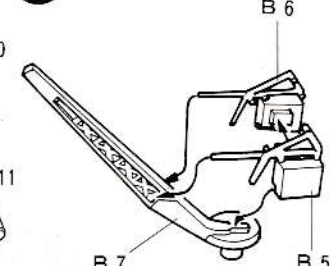
副砲
A 6



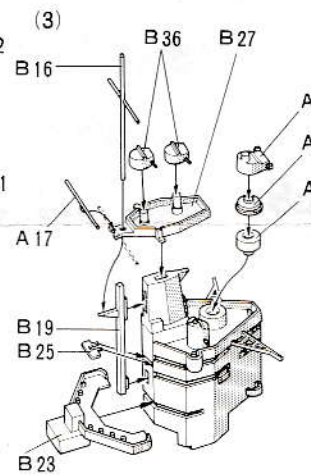
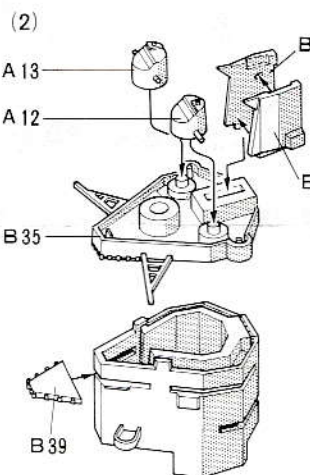
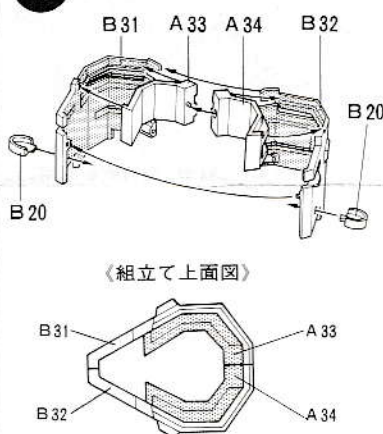
2 主砲のくみたちて



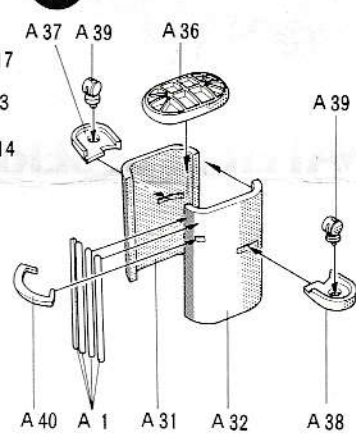
3 デリックのくみたちて



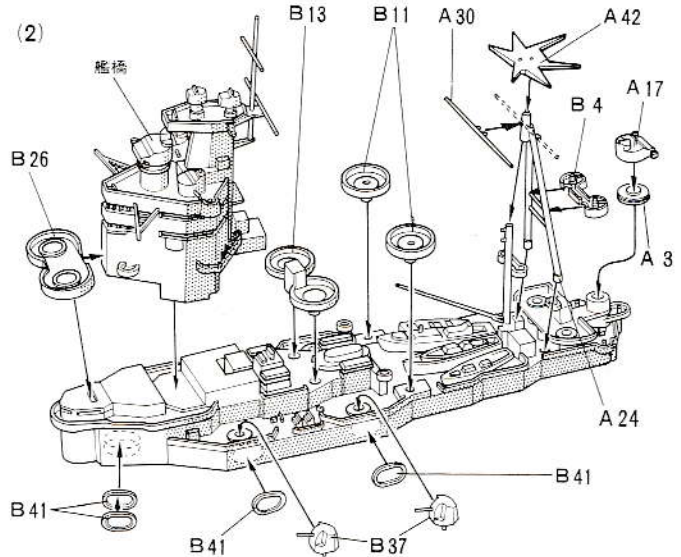
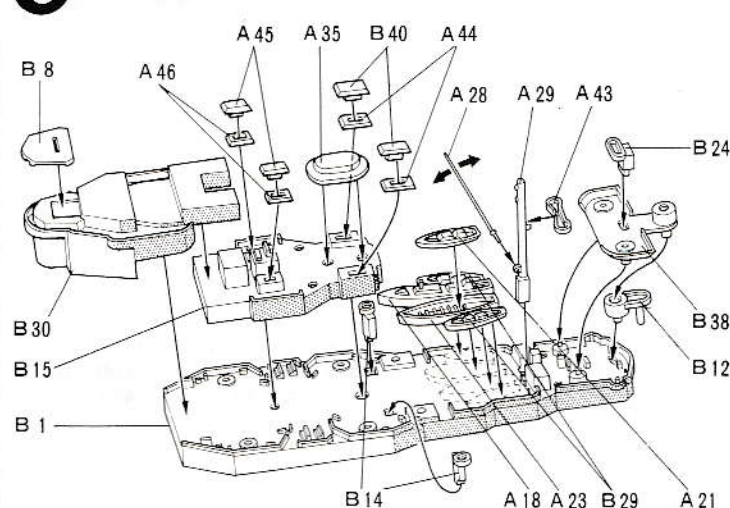
4 艦橋のくみたちて (1)



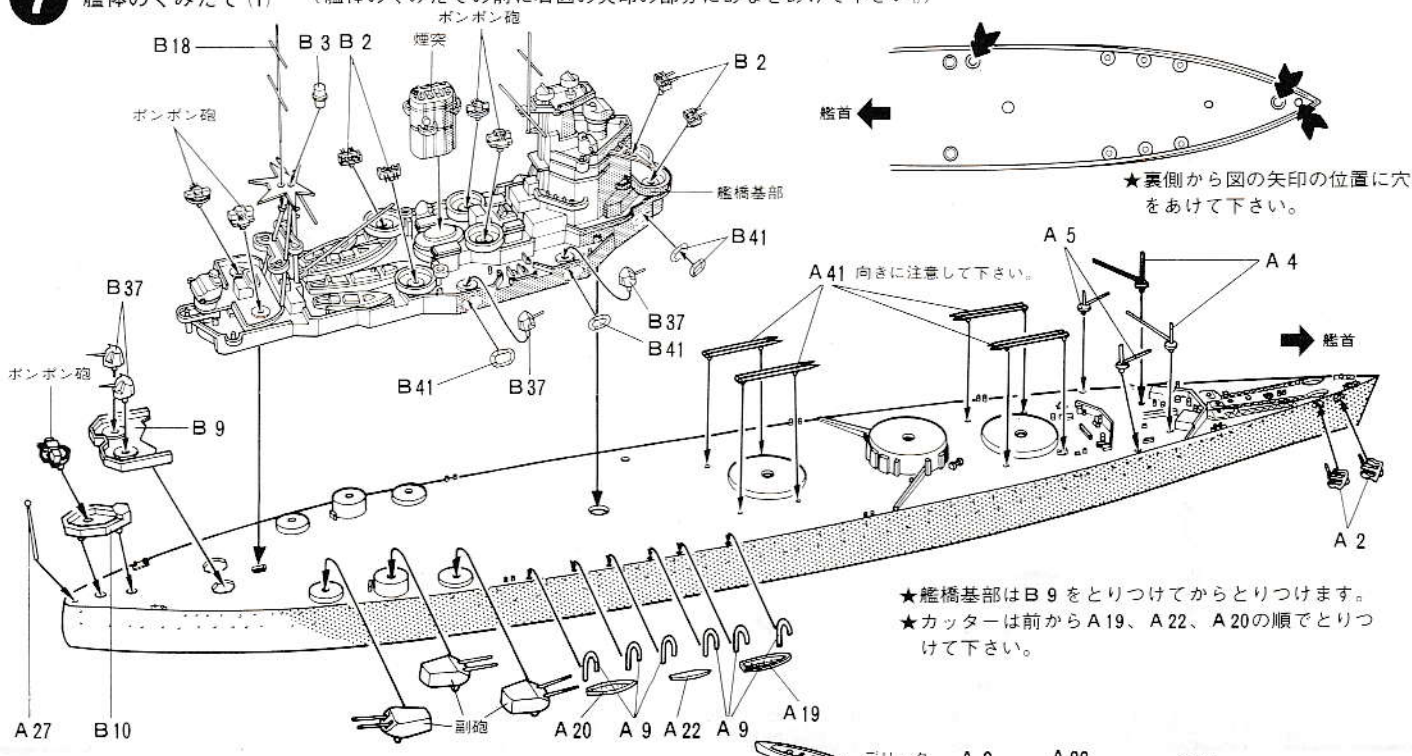
5 煙突のくみたちて



6 艦橋基部のくみたちて (1)



7 艦体のくみたて (1) (艦体のくみたての前に右図の矢印の部分にあなをあけて下さい。)



8 艦体のくみたて (2)

